

北海道には内地(こういう言い方が許されるのかどうかは不明だが)と違った面白い道路標識がある。

言うまでもなく、道路標識の種類、様式、設置場所その他道路標識等について必要な事項は、総理府令、建設省令(国土交通省令)で定められている。道路標識の維持管理は、道路管理者であり、国道は開発局、道道は土木現業所、市町村道は、市町村役場が所掌している。北海道独特の動物警戒標識等の特異な標識は、夫々の地域の特性に応じ、道路管理者が設置することが出来ることとされている。特に注意を促す必要のあるものについて、例えば動物の飛び出し等の注意等を特に促したい場合当該動物等のイラストを注意標識にしている。

### ● 動物警戒標識

交通教則によると『動物注意』と言う動物警戒標識はあるが、北海道には、各種の動物に関する警戒標識が路側帯に正に乱立している。当該動物等のイラストを標識にした警戒標識には、次の7つの標識があるようだ。輸送班の諸官が良い写真を撮ってくれたが、重くなりそうなので省略する。

- ① キツネ標識：キツネ一匹のものと親子キツネ(カラーバージョンもある?)の2種類があるようだ。イラストのキツネもある。
- ② シカ標識：シカが飛び込んできての死亡事故も年間に何件かある。標識はシカが飛び跳ねているものだ。
- ③ 牛横断注意標識：ホルスタインの乳牛一頭の図柄が殆どだが、黒毛和牛(?)の図柄もある。矢白別演習場への往復には良く見かける。
- ④ 馬横断注意：静内の二十間道路の桜見物の時にかなり見かけた気がするが、十勝ほか道東では余り見かけない。土地柄が現れている。網走監獄の近くや阿寒町の道道 222 号にもある。
- ⑤ 熊出没注意：余り見かけないが、この標識の所では、車から降りないことですね。
- ⑥ リス注意：帯広市内緑ヶ丘公園周囲の道にある。蝦夷リスも交通事故に遭遇している。
- ⑦ タヌキ注意：可愛いタヌキの標識もある。

参考までに、「ヤドカリに注意」と言う可愛いヤドカリの顔をした標識が小笠原諸島の父島にあるらしい。(5師団司令部輸送班調べ)

### ● 固定式視線誘導柱

このタイトルを見て何のことなのか解る人は稀有だろう。車道と歩道を明示しているオーバーハングの下向きの矢印の事だと言えば納得して貰えよう。積雪道を運行する時や吹雪いている時などには有り難い。夜間等は点滅しうるようになっている。本記事を書きたくて、道路標識を色々眺めていたら、矢印型ではない型のものもあった。一体どんなポリシーで作られているのだろうか？ 或る者に言わせれば、除雪車用の標識だと。であったとしても有り難い標識であることは事実だ。

### ● 停止線標識

交差点に『停止線』と明示した規制標識がある。雪国ではない所では、道路上に停止線を

図示すれば事足りるけれども、積雪状態では当然見えないので、斯様な標識が必要である。交差点での徐行、確実な安全確認、停止線での停止で十勝型事故を防がねばいけない。

● 案内標識

各市町村等の境界には、夫々の市町村が工夫を凝らした案内看板が設置されている。今、手元にある市町村の図柄を紹介しよう。上士幌町：熱気球、鹿追町：鹿、帯広市：スケーター  
音更町：花時計、士幌町：腰掛けた牛、芽室町：パークゴルフの道具、  
忠類村：スキーを持つナウマン象、幕別町：パークゴルフとクマゲラ  
豊頃町：榆の木、足寄町：ラワン蔭とコロポックル、陸別町：寒暖計を持った震える女の子  
新得町：スキーヤー、池田町：ワイン城

● 道路に関する面白い話題

帯広市内に二つの名前を持つ道路がある。一つは、道道としてのアルバータ通りである。帯広市がカナダのアルバータ市と姉妹都市であるから命名されたものであり、メープルの木を植樹している。一方、他の名前は、中島通りといい、これは市道としての名前である。国道も重複区間があるのだから、道道と市道との重複があっても良いのかもしれないが、すっきりしない。二つの名前が併記してあるから知らない者はと戸惑うのではないだろうか。

● 新型信号機

北海道だけではないのだろうが、雪国では、縦型の信号機を見かける。同じ市街地でもある所は縦型、ある所は横型となっているが、今後は雪対策及び運転者からの見えやすさを考慮して、縦型が主流になりそうだ。

(了)